

ITを駆使した新たな金融サービス、フィンテック（FinTech）が今大きな注目を集めている。IT企業が銀行にとって代わって、金融サービスの主役になるかもしれないと言われている。

フィンテックとは、金融を意味するファイナンス（Finance）と技術（Technology）を合成した造語である。AI（Artificial Intelligence、人工知能）やビッグデータの分析を駆使した新し

フィンテックが切り開く金の未来

ピードも追い打ちをかけ、次々とITのベンチャー企業が新しいビジネスモデルを開発・提供し、短期間のうちに金融に大きな変化をもたらしているようだ。

例えば、フィンテックによりロボアドバイザーという資産運用のサービスも生まれている。数千にも上る銘柄の金融商品の値動きを常にAIがチェックする。顧客のニーズに合わせて瞬時に銘柄を組み合わせ、ベストな投資のアドバイスをしてくれるというから驚きだ。これまで、資産運用のサービスは主に銀行や証券会社の専門の社員が担ってきた。これをAIに任せることで、チェックできる銘柄数が従来と比較して格段

フィンテックは次々と新しいビジネスを生み出している。お金の貸し出しを手掛ける企業では、資金を借りた人と貸したい人を、インターネット上で仲介するマッチング・ビジネスという仕組みを構築している。マッチングは、今ではeコマースのECサイトなどでおなじみであろう。

この企業では、ある会社から融資の申込みを受けると、その経営状況を審査し5段階くらいで格付けする。その格付けをサイト上で確認し、自分たちの意向とよくマッチする場合に融資を決定する。資金を受けやすい仕組みを作っているのは会社の経営者にとってありがたいことである。

資産運用や融資先

AIが判断手助け

い金融サービスである。

フィンテックの特徴は、従来から存在する銀行などの金融機関の壁を越えて、決済や資産運用のスピードリーな融資を実現していることである。技術革新のス



名古屋経済大学
経営学部教授

吉川 伸一

に増えるという。最近では、仮想通貨と呼ばれる従来とは一線を画すお金の形も登場するようになった。

フィンテックを活用した身近なサービスとしては、家計簿アプリがある。家計簿アプリと連携した銀行口座やクレジットカード、電

子マネーで決済すれば、収入や支出が自動的に記録される仕組みになっている。

日本ではまだ現金決済が多いが、この場合でもレシートを撮影すれば自動的に決済日、金額、品目を記録してくれるという。

貸したい企業、借りたい企業を見つけ出してビジネスの活性化へと結び付ける。これまで銀行は、人と人が相対して融資を実施していた。今は、AIを駆使しビッグデータを解析して融資するかどうかを判断している。果たしてAIで的確な判断ができるのか、疑問を持つ人もいるだろう。

今のところ高い性能で実現しており、専門家の見方はそれなりの信頼度はあるということだ。

もうひとつ、セキュリティの問題もある。膨大な個人情報を取り扱っているから、個人情報の漏えいなどがないよう、セキュリティをいかに高めていくかもフィンテックの早急の課題であらう。

よしかわ・しんいち ファジィデータ解析、SCMに関する基礎的研究。大阪府立大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。1963年生まれ。

